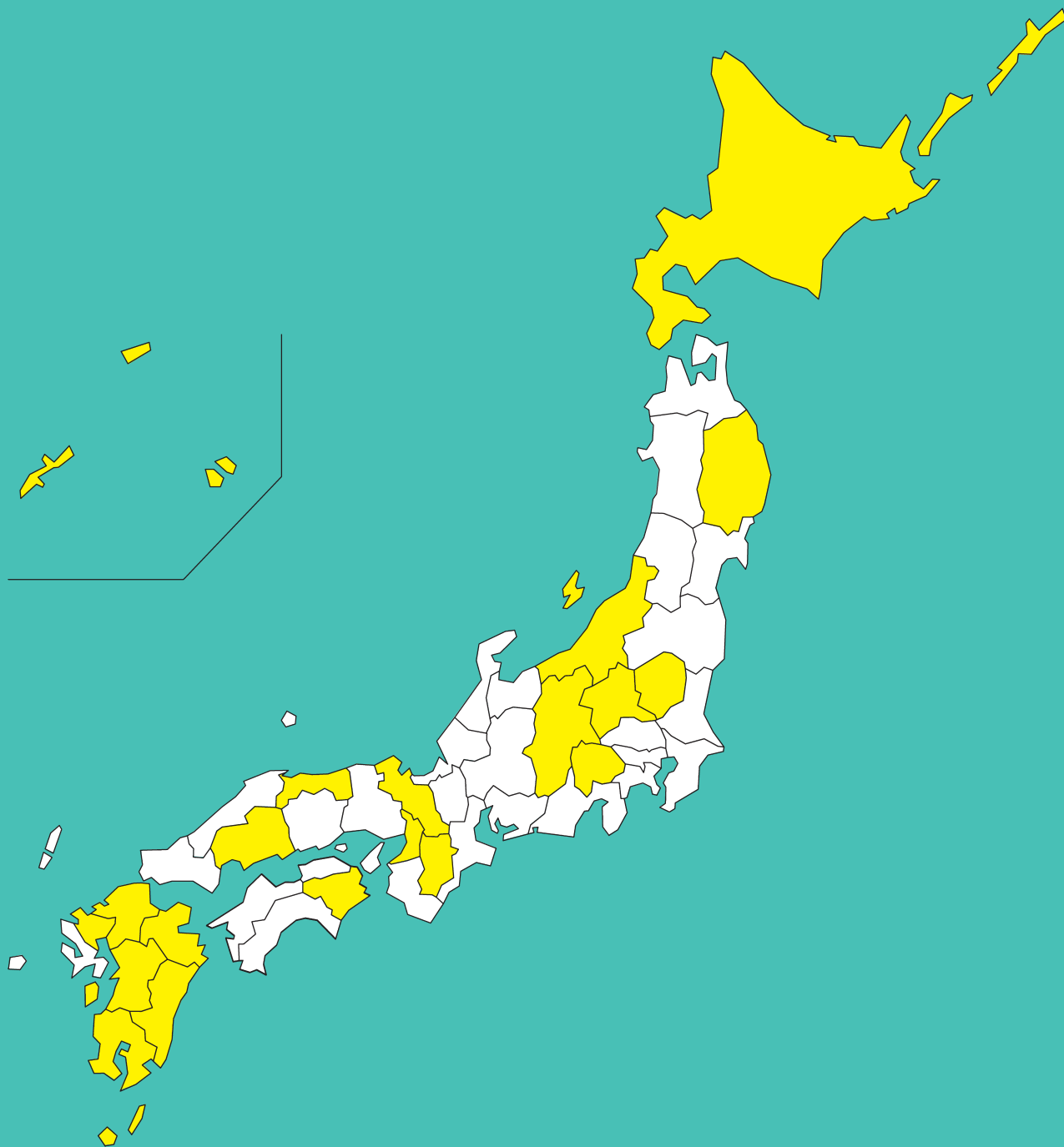


令和5年度 現地研修会開催応募要項



公益財団法人 地域社会振興財団

<https://www.zcssz.or.jp/>



日本地図は、過去5年間に開催された地域を色塗りしています。

目 次

■ 公益財団法人 地域社会振興財団の概要	1
■ 現地研修会のご案内	3
1 応募要件	4
2 採否の決定	5
3 研修会開催にあたって	5
4 当財団で負担する開催経費	5
5 経費に係る事務処理	6
6 研修会開催後に提出いただく書類	7
現地研修会開催状況	8
現地研修会の様子	12
■ 中央研修会のご案内	13

様 式

【応募様式1】 令和5年度現地研修会開催申込書	14
【応募様式2】 講師関係名簿	15
【応募様式3】 開催経費内訳書	16
【報告様式1】 現地研修会実績報告書	17
【報告様式2】 収支計算書	18
【報告様式3】 参加者名簿	19
【報告様式4】 アンケート	20
【報告様式5】 講師謝金・旅費銀行振込依頼書	21
【報告様式6】 立替金請求書	22

見 本

テキスト表紙見本	23
公益財団法人 地域社会振興財団の紹介（テキストに使用）	24～26
看板の見本	27
日程表の見本	28

公益財団法人 地域社会振興財団の概要

設立の趣旨

地域社会振興財団は、へき地などの地域社会がかかえる保健・医療・福祉等の諸問題について、基礎的・総合的な研究を行い、そこで生活する人々が生きがいをもって健やかに暮らすことができる地域社会づくりに貢献し、地方自治の基盤の充実に寄与することを目的として、昭和47年（1972年）12月に「財団法人へき地振興財団」の名称で設立された法人です。

以来、経済社会の動向を見つめながら、そのニーズに沿った事業を推進して参りましたが、それぞれの地域において一人ひとりがこころ豊かで、自立と連帯の精神に立脚して形成される魅力ある地域社会が築かれるよう、高齢化対策に積極的に取り組んでいる地方公共団体を支援するため、長寿社会づくりソフト事業費交付金交付事業を創設し、これを機に、名称を平成元年（1989年）4月に「財団法人地域社会振興財団」と改め、その後公益法人制度改革に伴う公益法人への移行認定を受けて、平成25年（2013年）4月から「公益財団法人地域社会振興財団」として新たにスタートしました。

なお、当財団は令和4年（2022年）12月には、設立から50年が経ち、地域社会が抱える諸問題等に対し地方自治の基盤充実に努めてきました。今後は、これまでの施策及び事業等を継続しつつ、時代の変化に伴う地域社会のニーズに沿った事業を展開していきます。

事業概要

◆ 調査研究事業（公益目的事業1）

へき地など地域住民の疾病の特異性、病態生理とその原因等を明らかにし、それに対する有効な対策等を行うため「地域社会健康科学研究所」を設置し、環境医学研究部門、血液医学研究部門、保健科学研究部門、健康福祉計画研究部門、病態生理研究部門、情報システム研究部門の6研究部門及び実験医学センター並びにさいたま支所を置き、基礎的・総合的な調査研究を行うほか、同地域における高齢化、少子化の進行に対応した保健・医療・福祉に係る諸施設を支援するための事業です。

また、当研究所の調査・研究事業に必要な研究機器は、「難病及び希少難病に関する研究等」として、公益財団法人JKAからの補助金（競輪公益資金）により整備され、使用されています。

なお、整備された研究機器について、当研究所内において有効的に活用され、それらの研究成果については、毎年度「地域社会健康科学研究所報告集」として冊子化し、各都道府県等に配付しています。

◆ 研修事業（公益目的事業2）

当財団では、自治医科大学と密接な連携のもとに各種研修会（中央研修会と現地研修会）を合わせて年間30回程度開催しています。

また、地域住民を対象とした保健・医療・福祉等に関する意識向上のための研修や、地域医療が抱える様々な問題とその解決策を医療従事者等と地域住民とともに考え討議するフォーラムやシンポジウムを開催しています。

<中央研修会>

当研修会は、地域社会において保健・医療・福祉事業に携わる方々が、最新の医学知識と医療技術を習得することにより、地域住民が安心して生活することができることを目的に開催しています。

講師には、自治医科大学の教職員及びそれぞれの分野において活躍されている方々を招き、最新の医療情報の講義や技術の向上を図るための演習等を実施しています。

<現地研修会>

当研修会は、地方公共団体等が推進する健やかな長寿社会づくりに寄与することを目的に、地域住民の方々と地域社会において、保健・医療・福祉事業に携わる方々を対象として、保健・医療・福祉事業に関するテーマで、当該団体と当財団が共催の形を取り全国各地で開催しています。

<健康福祉プランナー養成塾>

地域住民の社会福祉・介護サービスを構想し、運営するコミュニティ・リーダーの育成を目的に、健康福祉行政等の企画立案に携わる地方公共団体等の保健師、医師、事務職員等を対象に、保健・医療・福祉に関する専門知識の理解と、優れた企画立案能力を習得するため、職種横断的な研修会を年2回（夏季コース・アドバンスコース）開催しています。

<地域医療を考える県民フォーラム>

深刻化する医師不足等の地域医療に関する現状及び課題について、行政、医療関係機関、住民等が認識を共有し、自らの地域のあり得べき地域医療について主体的かつ建設的に考えるフォーラムを開催することによって、開催県における地域医療の充実確保に寄与するとともに、地域が一体となって自らの地域医療について考える全国的なモデル事業としての役割を果たすことを趣旨・目的としています。

<地域医療を守り育てる住民活動全国シンポジウム>

このシンポジウムは、地域医療の課題を解決するには地域住民の理解や協力などの「住民の力」や、住民の主体的活動が重要であることを共通の認識とすること、住民と地方自治体行政との相互理解・協働が不可欠であることの認識を共有し、また、そのような住民の団体（住民グループ・NPO法人等）が全国的な連携をとれるようなネットワークづくりを目的として開催しています。

◆ 交付金交付事業（公益目的事業3）

栃木県から発行される「地域医療等振興自治宝くじ」通称「レインボーくじ」の収益金を財源として次の事業を行います。



<人生100年時代づくり・地域創生ソフト事業交付金交付事業>

都道府県及び市（区）町村が、高齢社会対策大綱のほか、少子化社会対策大綱や第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略などの実現に資するために積極的に取り組む事業に対し交付金を交付しています。

<整備拡充事業費交付金交付事業>

へき地等の地域医療の先駆的な役割を担っている自治医科大学の教育・研究に欠くことのできない施設設備や研究機器などの整備拡充を支援するため、交付金を交付しています。

現地研修会のご案内

現地研修会は、地方公共団体等が推進する「健やかな長寿社会づくり」に寄与するため、地域住民の皆様をはじめ保健・医療・福祉事業等に携わる方々を対象として、昭和58年（1983年）から開催しております。都道府県・市区町村の保健、医療、福祉関係機関及び当該推薦機関が企画し、ご応募いただいた研修会の中から採択した研修会を支援しております。これまで延べ498回開催したところ、お蔭様で大変好評をいただいております。令和2年度から令和4年度には地域医療、子育て支援等の研修会を計11回開催しております。⇒後掲P8

研修会の開催に際しましては、当財団の予算の範囲内で開催経費を負担いたしますので、多くの自治体等からのご応募をお待ちしております。

▼第494回 栃木県下野市



▼第494回 栃木県下野市



▼第495回 奈良県田原本町



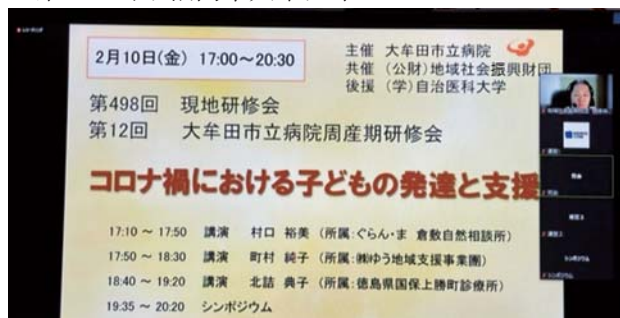
▼第496回 奈良県奈良市



▼第497回 岩手県一関市



▼第498回 福岡県大牟田市



1 応募要件

(1) 対象となる研修会

地域社会における保健・医療・福祉に関するテーマの研修会が応募対象となります。具体的には、次の内容をテーマとした研修です。

なお、応募機関内部の研修会、勉強会、学術集会、町内会等は対象外となります。

① テーマ

(a) 「住民のための生活習慣病対策」をテーマにした研修

地域住民の方々や地域医療に携わる医師、保健師、看護師及び医療技術者など地域医療従事者の方々を対象に、「21世紀における国民健康づくり運動（健康日本21）」に定めた栄養・食生活、身体活動・運動、休養・こころの健康づくり、たばこ、アルコール、歯の健康、循環器病、がん、糖尿病及びCOPD（慢性閉塞性肺疾患）についての治療及び予防などに関する研修や最新情報の提供・事例発表などを交えた研修

(b) 地域住民の方々が、教育講演等を通じて、自らの健康への関心を高めるための研修

(c) 地域社会において保健・医療・福祉事業に携わる方々に、それぞれの事業活動を推進するにあたって必要となる技術及び情報の提供を行い、関係機関の連携を深めるための研修

(d) 地域医療に携わる医師、保健師、看護師及び医療技術者など地域医療従事者の方々に、最新の医学知識や技術の提供をすることにより、保健・医療・福祉事業等に寄与できる研修

② 日程（研修期間）

原則1日（4時間程度）とし効率的な日程を組んでください。

なお、開催日時は申請者からの希望日時を優先いたしますが、調整させていただく場合があります。

③ 参加者等

参加者は、地域住民の方々及び保健・医療・福祉に携わる方々とし、研修内容及び形式（講義形式・演習形式）に応じて、概ね50名以上の参加者を募ってください。

④ 講師

研修内容に適した講師を選出してください。

(2) 応募対象機関

都道府県・市区町村の保健・医療・福祉関係機関及び当該推薦機関

※都道府県・市区町村以外の機関が応募する場合は、必ず都道府県・市区町村からの推薦状を提出してください。

(3) 応募期間

① 第1回目 4月3日（月）から5月31日（水）

② 第2回目 6月1日（木）から7月31日（月）

③ 第3回目 8月1日（火）から9月29日（金）

※ご応募の際は、申込書提出前に事務局まで必ずご連絡ください。

(4) 応募書類等

次の書類を郵送してください。

① 令和5年度現地研修会開催申込書……………【応募様式1】14頁

② 講師関係名簿……………【応募様式2】15頁

③ 開催経費内訳書……………【応募様式3】16頁

2 採否の決定

各応募期間締切り後、当財団の「研修委員会」において審査し、採否を決定します。

採否については、応募機関に文書で通知します。

3 研修会開催にあたって

研修会の具体的な内容、開催までのスケジュールなどの確認について、お電話・メール等で打合せを行います。研修形式は集合型研修の他、オンライン研修も可能ですので、ご応募の際はそ
の旨お知らせください。なお、研修会は2月末日までに開催し、**研修会日程表（主催者が作成した
もの）**を詳細決定後速やかにご提出ください。【見本⇒後掲P28】

4 当財団で負担する開催経費

研修会に係る下記の開催経費は、当財団の予算の範囲内で開催経費を負担いたします。

ただし、次の(1)から(3)の講師謝金、旅費、講師自らが支払いをした場合の宿泊費については、**所得税分として10.21%を源泉徴収して支給します。**

(1) 講師謝金（科目：諸謝金）

当財団講師謝金基準に基づき支給します。

《参考：支給基準額抜粋》

区分／講義時間	1時間以内	1時間超 2時間以内	2時間超 3時間以内	3時間超 4時間以内	4時間超 5時間以内	5時間超 6時間以内	6時間超 7時間以内
自治医科大学以外の 大学・民間・行政	30,000	45,000	60,000	70,000	80,000	90,000	100,000
自治医科大学及び 附属病院の教職員	15,000	20,000	25,000	30,000	35,000	40,000	45,000

(注) 同一カリキュラムを2人以上の講師が担当する場合は、上表の1/2とする。

(2) 講師旅費（科目：旅費交通費）

勤務先から研修会場までの交通費が該当します。ただし、勤務先が自宅の場合、自宅からとなります。

《支給基準》

「国家公務員等の旅費に関する法律」（昭和25年法第114号）に準拠し、原則として、実費弁償により算出し支給します。ただし、航空機のファーストクラス等の特別料金、鉄道のグリーン車料金等については対象外となります。

(3) 会場使用料及び講師宿泊費（科目：賃借料）

① 会場使用料

会場使用料及び講義に使用するマイク、プロジェクターなどの器材使用料が該当します。

なお、研修会場は、原則として**公共施設**（県・市民文化センター、公民館等）をご利用ください。

② 講師宿泊費

講師の宿泊が必要な場合は、主催者が宿泊施設を手配され、当該施設から当財団宛ご請求ください。

《支給基準》

宿泊料の目安 1泊朝食付き 12,000円

※なお、事情により講師自ら宿泊施設に支払いをした場合は、「国家公務員等の旅費に関する法律」(昭和25年法第114号)に準拠し支給します。

(4) テキスト代(科目:印刷製本費)

印刷及びコピーするテキスト・資料作成に係る経費が該当します。(用紙代含む。)

なお、テキストの様式については、当財団が定めた見本(主催者名及び共催者名の表示、当財団の紹介など)に基づき作成してください。⇒後掲P23～26

(5) 文具品等代(科目:消耗品費)

研修会名等を表示した看板作製、文具品等に係る経費が該当します。看板の作製経費の目安は3万円とし、様式については、当財団が定めた見本(主催者名及び共催者名の表示など)に基づき作成してください。⇒後掲P27 文具品等に関しては、事務局に随時ご相談ください。

(6) 雑費

講師等の食事代等に係る経費が該当します。目安は1人あたり1,500円とします。

(7) 通信運搬費

研修会の案内状を送付するときの切手代及び配付資料の宅配便代が該当します。

【 開催経費に関する留意事項 】

- ① 提出された経費概算額に基づき、当財団が負担できる経費について調整させていただくことがありますので、予めご了承ください。
- ② 本研修会に係る経費以外は負担できませんので、他の経費と混合しないようご注意ください。
- ③ 当財団以外の補助を受ける場合及び参加費を徴収する場合には、予めお申し出ください。
- ④ これらの経費に係る事務処理につきましては、次の **5「経費に係る事務処理」**を参照し適正に行ってください。

5 経費に係る事務処理

(1) 支払方法

次の2通りがあるので、主催者は支出毎に何れかを選択し当財団に報告してください。

① 業者等に当財団から直接支払う場合

請求書・納品書・見積書をお送りください。納品書には検収印を押印願います。この際、宛名は必ず「地域社会振興財団」とし、振込銀行名・支店名・預金種目・口座番号・口座名義・名義フリガナを記載願います。経費は銀行振込でお支払いします。

② 主催者が立替えて支払う場合

「立替金請求書」（報告様式6）により立替者へ銀行振込でお支払いします。当該領収書を添付しお送りください。ただし、領収書の宛名は全て「地域社会振興財団」としてください。

なお、領収書がない場合にはお支払いできませんので予めご了承ください。

（参考：支払に関する留意事項・必要書類一覧）

項目	留意事項	必要書類	
		業者支払い 【銀行口座振込】	主催者の立替払い 【立替金請求書】
講師謝金	所得税として10.21%を源泉徴収して支給します。支払調書が翌年1月下旬頃、当財団から講師（自宅）に送付されることをお伝えください。	講師謝金・旅費銀行口座振込依頼書	
講師旅費	所得税として10.21%を源泉徴収して支給します。	上記と同じ	状況に応じて相談
講師宿泊費	主催者が宿泊施設を手配し、 講師が宿泊代を支払わない ようにしてください。	請求書	領収書
会場使用料 雑費 通信運搬費	・会場使用料・器材使用料等 ・講師食事代等 ・案内状・配付資料送付時の切手代、宅配便代	請求書	領収書
テキスト代 看板・文具代等	・印刷・コピー等、見本に基づき作成。 ・見本に基づき作成。	請求書・納品書・見積書	領収書

(2) 支払予定日

締切りは月末ですので、それまでに受理したものは翌月末にお支払いします。

6 研修会開催後に提出いただく書類

開催終了後、1ヶ月以内に次の書類等①から⑩を提出してください。

- ① 現地研修会実績報告書・・・【報告様式1】17頁
- ② 収支計算書・・・【報告様式2】18頁
- ③ 参加者名簿・・・【報告様式3】19頁
- ④ アンケート・・・【報告様式4】20頁
- ⑤ 講師謝金・旅費銀行振込依頼書・・・【報告様式5】21頁
- ⑥ 立替金請求書【報告様式6】22頁と領収書（内訳が記入されたもの）
- ⑦ 講師のマイナンバーカードの写し（両面）、または通知カードの写しおよび
運転免許証等の顔写真付公的証明書の写し
- ⑧ テキスト
- ⑨ 研修風景写真
- ⑩ 請求書（内訳が記入されたもの）などの支払い書類、経費内訳

現地研修会開催状況

【令和4年度】

開催月	研修会名・テーマ	開催地	主催
8月	(地域社会振興財団50周年記念事業) 第10回つるカフェ市民講座講座 コロナで鍛えた私たちの底力～しなやかに生きる力	栃木県 下野市	地域社会振興財団、 つるかめ診療所
9月	奈良県高次脳機能障害研修会 高次脳機能障害の方を理解するために～社会的行動障害の 特性とその対応方法～	奈良県 奈良市	奈良県高次脳機能障害 支援センター
10月	令和4年度奈良県総合リハビリテーションセンター県民公開講座 家族みんなが健康に！！目指せ！奈良県、健康長寿日本一！	奈良県 田原本町	奈良県総合リハビリ テーションセンター
11月	介護職パワーアップ研修Ⅱ 私たち介護職が元気になる職場を考える	岩手県 一関市	ふじさわ地域包括 支援センター
2月	大牟田市立病院周産期研修会 コロナ禍における子どもの発達と支援	福岡県 大牟田市	地方独立行政法人 大牟田市立病院

【令和3年度】

開催月	研修会名・テーマ	開催地	主催
10月	令和3年度県央在宅緩和ケア研修会 がんになっても、あなたはあなた～できるかぎり自宅での日常を～	宮崎県 宮崎市	宮崎県 中央保健所
11月	元気回復プラン（WRAP）体験クラス 自分の取扱説明書を作成してみよう	熊本県 玉名市	九州看護 福祉大学
11月	あまみ療育ネットワーク発達セミナー みんなで学ぼう、発達支援！	鹿児島県 龍郷町	あまみ療育 ネットワーク
12月	第9回つるカフェ市民講座 コロナが教えてくれた大事なこと～遠くの名医より近くの？？？	栃木県 下野市	つるかめ診療所
2月	大牟田市立病院周産期研修会 妊産褥婦を取り巻く家族アセスメント手法	福岡県 大牟田市	地方独立行政法人 大牟田市立病院

【令和2年度】

開催月	研修会名・テーマ	開催地	主催
10月	令和2年度県西在宅緩和ケア研修会 がんとともに生きる～在宅でのがん治療や在宅緩和ケア～	宮崎県 都城市	宮崎県都城保健所

【令和元年度】

開催月	研修会名・テーマ	開催地	主催
6月	ふじさわ地域包括ケア研修会 特別企画”介護職パワーアップ研修会” 保健・医療・福祉事業に携わる人々を元気にし、連携を深める	岩手県 一関市	一関市国民健康 保険藤沢病院
8月	DV・虐待家庭への支援者研修会 エンパワメントとレジリアンスの技法・虐待が併発している 家庭への支援と解離性障害のある人への支援	沖縄県 名護市	沖縄県立 北部病院
8月	第2回 きょうから健康・元気づくりプロジェクト 「最期まで幸福な人生を！～きょうから出来る健幸習慣～」	京都府 舞鶴市	NPO法人J-HOPE
8月	第7回 つるカフェ市民講座 「自治医大と一緒に考える下野市の地域共生社会」	栃木県 下野市	つるかめ診療所
9月	妙高市食生活改善推進委員の会ステップアップ研修会 生活習慣病もフレイルも予防したい！よくばり運動実践講座	新潟県 妙高市	妙高市健康保険課
9月	生きる力を学ぶ研修会 口と体は一緒に発達する～生きる力は新生児から～	群馬県 前橋市	ぐんま地域保健研究会
9月	母子保健を地域で考える研修会 ヒトの発達を線でつなぐ～生きる力を育てるために～	群馬県 長野原町	長野原町
10月	身体調和支援研修会 子どもの身体と発達の関係について	徳島県 つるぎ町	つるぎ町 保健センター
10月	食育研修会 子育て/生活習慣病予防/ゴミゼロ/それぞれの切り口から 食育を考える	徳島県 上勝町	上勝町住民課
11月	令和元年度子ども虐待予防地域連携研修会 精神疾患を持つ親と子どもへの支援	佐賀県 唐津市	佐賀県北部 児童相談所
11月	子ども未来力はぐくみ研修 子どもの自然発達力を伸ばす身体調和支援を学ぼう！	北海道 北広島市	(一社)北海道 マザーリングサポート 協会
11月	こころの健康づくり 「うたで伝える心の健康」	鳥取県 倉吉市	倉吉市健康福祉部 保健センター
12月	第8回 おどんが健康づくり大会 「地域のつながりが命を守る～今、私たちにできること～」	熊本県 あさぎり町	あさぎり町 健康推進課

開催月	研修会名・テーマ	開催地	主催
12月	災害時地域で弱者が守られるために 災害において当事者であり支援者になる自分たちのために 必要なことを学ぶ	山梨県 山梨市	山梨市立牧丘病院 (サポートやまなし)
1月	支援者ネットワーク推進発達セミナー 姿勢と口腔機能の関係 子育て支援	鹿児島県 奄美市	あまみ療育 ネットワーク
2月	ゆいの市&いきいき健康フェスタ ～暮らしやすい宇検村へ～	鹿児島県 宇検村	宇検村保健福祉課

【平成30年度】

開催月	研修会名・テーマ	開催地	主催
9月	第6回 つるカフェ市民講座 「市民が育てる地域共生社会～敬老の日に考える人材育成」	栃木県 下野市	つるかめ診療所
9月	健康長寿を目指した健康づくり 人生100年時代を見据えた健康戦略～健康長寿に向けて～	新潟県 燕市	燕市健康福祉部
10月	平成30年度延岡西臼杵地区在宅緩和ケア研修会 元気なときこそ知っておこう、がん治療と緩和ケア	宮崎県 延岡市	宮崎県延岡保健所
11月	平成30年度姫島村健康づくりの集い 人生100年時代の健幸学～「いい人生だった」と言うために～	大分県 姫島村	姫島村健康推進課
11月	2018 いい医療の日記念イベント 住み慣れた地域で暮らし続けるために、今できることを考える	長野県 松本市	松本市
12月	平成30年度子ども虐待予防地域連携研修会 乳幼児揺さぶられ症候群（SBS）の理解と予防・再発防止	佐賀県 唐津市	佐賀県北部 児童相談所
12月	「守口版地域共生社会」フォーラム 共に生き、共に支え合う地域共生社会の実現に向けて	大阪府 守口市	守口市健康福祉部
12月	平成30年度日南町地域包括ケア会議シンポジウム 「終活」～未来の私が きらきら輝き 生き終えるため～	鳥取県 日南町	日南町福祉保健課
12月	「健康寿命延伸・健康づくり」研修会 「インターバル速歩」で身も心も健康で美しく！	京都府 南丹市	南丹市教育委員会 社会教育課
12月	うんちサミット 「うんち」にまつわるすべてについて色々考える	山梨県 山梨市	山梨市立牧丘病院 (サポートやまなし)
1月	地域母子保健・子育て支援従事者研修会 乳児の運動発達の見方と関わり方について	広島県 三原市	三原市保健福祉部

開催月	研修会名・テーマ	開催地	主催
2月	第1回 きょうから健康・元気づくりプロジェクト 「きょうから始める健幸習慣～最期まで幸せに生きて逝くために～」	京都府 綾部市	NPO法人 J-HOPE
2月	思春期の輝く未来を支えるピアカウンセリング(仲間相談活動)推進セミナー 思春期の輝く未来・叶い(ミライ・カナイ)を支える、性=生の自己決定能力を育てる健康教育	沖縄県 名護市	公立大学法人 名桜大学

現地研修会の様子



中央研修会のご案内



第2回災害保健研修会 研修風景

当財団の研修事業では、今回ご案内申し上げました現地研修会の他に「中央研修会」と称し、保健・医療・福祉事業に関する研修を、医師、保健師、看護師、医療技術者など地域医療従事者を対象として、昭和50年（1975年）から自治医科大学内の地域医療情報研修センターで開催しております。

詳しくは、「令和5年度中央研修会募集要項」又はホームページをご覧ください。

令和5年度中央研修会の開催日程

No	研 修 会 名	研 修 期 間	定員
1	第1回 看護補助者の活用推進のための看護管理者研修会	5月27日（土）	30
2	第41回 診療放射線技師研修会	6月1日（木）～3日（土）	40
3	第41回 薬剤師研修会	6月8日（木）～9日（金）	60
4	第8回 栄養管理研修会	6月23日（金）～24日（土）	40
5	第48回 臨床検査技師研修会	6月29日（木）～30日（金）	50
6	第21回 健康企画・評価研修会	8月3日（木）～4日（金）	20
7	第42回 保健活動研修会	8月10日（木）～12日（土）	30
8	第1回 看護師特定行為研修修了者スキルアップ研修会	9月1日（金）～2日（土）	30
9	第41回 健康学習研修会	9月7日（木）～8日（金）	20
10	第19回 口腔ケア研修会	10月6日（金）～7日（土）	20
11	第2回 災害保健研修会	10月21日（土）～22日（日）	20
12	第23回 リハビリテーション研修会	10月26日（木）～27日（金）	40
13	第46回 スタッフ育成・管理担当者研修会	11月2日（木）～3日（金）	40
14	第1回 チーム医療充実を目指したメディカルプロフェッショナル研修会	11月10日（金）	48

※ 新型コロナウイルス感染状況により、中止またはオンラインで開催する場合があります。

年 月 日

公益財団法人 地域社会振興財団
理事長 大石 利雄 様

機 関 名
所 属 名
役 職 名
責任者名

印

令和5年度現地研修会開催申込書

研 修 会 名				
テ ー マ				
ね ら い				
参加対象者				
参加予定者数	名			
開 催 日	第1希望日	年 月 日 ()	時 分 ~ 時 分	
	第2希望日	年 月 日 ()	時 分 ~ 時 分	
開 催 場 所	名 称			
	所 在 地	(電話)		
担 当 者 *直接事務処理、 事務連絡を行う方 のお名前をご記入 ください。責任者 とは別の方で願 いします。	勤務機関名			
	所 属 名			
	役 職 名			
	氏 名			
	連 絡 先	住所：〒		
		電話：	Fax：	
E-mail：				

【講師関係名簿】

講 師 名	
勤 務 機 関 名	
所 属 名	
役 職 名	
連 絡 先	〒
	電話
講 義 題 名	
講 義 時 間	
研 修 形 式	
講 師 選 定 理 由	

講 師 名	
勤 務 機 関 名	
所 属 名	
役 職 名	
連 絡 先	〒
	電話
講 義 題 名	
講 義 時 間	
研 修 形 式	
講 師 選 定 理 由	

【開催経費内訳書】

科 目	金 額	内 訳
諸 謝 金 (講 師 謝 金)	円	
旅 費 交 通 費 (講 師 旅 費)	円	
賃 借 料	円	会場使用料・器材使用料
	円	講師宿泊料
印 刷 製 本 費	円	テキスト代
消 耗 品 費	円	看板代・文具品等
雑 費	円	講師等食事代：目安@1,500× 人
	円	
通 信 運 搬 費	円	切手代・宅配便代 ※送付先内訳表（様式自由）を添付してください。
合 計	円	

*当財団以外の補助を受ける場合及び参加費を徴収する場合には、下記にご記入ください。

補助を受ける機関	
補 助 額	円
用 途	
参 加 料	円
用 途	

年 月 日

公益財団法人 地域社会振興財団
理事長 大石 利雄 様

機 関 名
所 属 名
役 職 名
責 任 者 名

印

現地研修会実績報告書

研 修 会 名	第 回 現地研修会						
開 催 日	年 月 日 () 時 分 ~ 時 分						
会 場							
テ ー マ							
ね ら い							
参 加 者 数	名						
	職 種 別 内 訳	医師	名	看護師	名	保健師	名
		助産師	名	栄養士	名	技師	名
		薬剤師	名	歯科衛生士	名	理学作業療法士	名
		行政職員	名	介護福祉士	名	保育士	名
		社会福祉士	名	精神保健福祉士	名	介護支援専門員	名
		教員	名	学生	名	地域住民・その他	名
実施状況報告							

収 支 計 算 書

(研修会名：第

回現地研修会)

(単位：円)

収 入 の 部		
科 目	金 額	内 訳
助 成 金	円	公益財団法人 地域社会振興財団の負担額
そ の 他	円	
合 計	円	

(注) その他には当財団以外からの助成金等についても記入してください。

(単位：円)

支 出 の 部		
科 目	金 額	内 訳
諸 謝 金	円	講師謝金 (名分)
旅 費 交 通 費	円	講師旅費 (名分)
賃 借 料	円	会場使用料・器材使用料
	円	講師宿泊料
印 刷 製 本 費	円	テキスト代
消 耗 品 費	円	看板代
	円	文具品等
雑 費	円	講師等食事代
	円	
通 信 運 搬 費	円	切手代・宅配便代 ※送付先の一覧(様式自由)を添付してください。
合 計	円	

参 加 者 名 簿

(研修会名 = 第 回現地研修会)

No	氏 名	職 種	勤 務 機 関
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			

※個人情報の取り扱いについて

本研修会参加者名簿に記載された皆様の個人情報は、当該研修会にのみ使用させていただきますので、ご了承をお願いいたします。

ア ン ケ ー ト

さらに現地研修会をより良いものにしたいと思っておりますので、アンケートにご協力ください。

- 1 当財団の現地研修会に申し込んだ回数は何回ですか。
 - (1) ① 初めて ② 2回以上 (回目)
 - (2) ①と応えた方にお尋ねしますが、現地研修会はどちらからお知りになりましたか。
 - ① 現地研修会応募要項 ② 自治医大卒業生 ③ 自治医大教職員
 - ④ その他 _____

- 2 当財団の現地研修会を利用した理由について
 - (1) 開催経費の資金援助が必要であったため
 - (2) 現地研修会の開催趣旨に賛同したため
 - (3) その他 _____

- 3 現地研修会の利用について
 - (1) 再度利用したい
 - (2) 利用しない (理由 _____)

- 4 今回研修会の開催結果からして、目的の達成度はどのくらいですか。
達成度 _____ %

【達成できなかった主な理由及び改善点】

-
-
-
-
-
- 5 地域で、新たに実施したい、或いは実施予定の事業等がありましたらお聞かせください。
-
-
-

- 6 貴機関では、今後どのような研修会を開催したいと思いますか。また、必要としていますか。
-
-
-

- 7 当財団に対するご意見、ご要望等がありましたらお聞かせください。
-
-
-
-

立 替 金 請 求 書

公益財団法人 地域社会振興財団 様

金 円

但し、 第 回現地研修会開催に係る経費の立替金として
上記のとおり、領収書を添えて請求いたします。

年 月 日

機 関 名

住 所

役 職 名

氏 名

印

【振込銀行名等】

銀 行 名	銀 行
支 店 名	支 店
預 金 種 別	1 普 通 2 当 座 3 その他 ()
口 座 番 号	
(フリガナ) 口 座 名 義	_____

(注) 請求者と口座名義が同一になるようお願いいたします。

当財団の名称を必ず入れてください

(公財) 地域社会振興財団 第〇〇〇回現地研修会

『 タイトルを入れてください 』

日 時：〇〇年〇〇月〇〇日 () 時 分 ~ 時 分

会 場：〇〇〇〇〇センター

主 催：〇〇県〇〇市

共 催：(公財) 地域社会振興財団

後 援：(学) 自治医科大学

当財団と(学) 自治医科大学の
名称を入れてください

* テキストの最終ページに載せてください。

【テキスト用】

公益財団法人地域社会振興財団の紹介

【設立の趣旨】

地域社会振興財団は、へき地などの地域社会がかかえる保健・医療・福祉等の諸問題について、基礎的・総合的な研究を行い、そこで生活する人々が生きがいをもって健やかに暮らすことができる地域社会づくりに貢献し、地方自治の基盤の充実に寄与することを目的として、昭和47年（1972年）12月に「財団法人へき地振興財団」の名称で設立された法人です。

以来、経済社会の動向を見つめながら、そのニーズに沿った事業を推進して参りましたが、それぞれの地域において一人ひとりがこころ豊かで、自立と連帯の精神に立脚して形成される魅力ある地域社会が築かれるよう、高齢化対策に積極的に取り組んでいる地方公共団体を支援するため、長寿社会づくりソフト事業費交付金交付事業を創設し、これを機に、名称を平成元年（1989年）4月に「財団法人地域社会振興財団」と改め、その後公益法人制度改革に伴う公益法人への移行認定を受けて、平成25年（2013年）4月から「公益財団法人地域社会振興財団」として新たにスタートしました。

今後も設立時の趣旨を踏まえつつ、地域社会における保健・医療・福祉の分野での、さまざまなニーズに応えるべく事業の充実に向けて邁進していきます。



* テキストの最終ページに載せてください。

【テキスト用】

【事業概要】

◆ 調査研究事業（公益目的事業1）

へき地など地域住民の疾病の特異性、病態生理とその原因等を明らかにし、それに対する有効な対策等を行うため「地域社会健康科学研究所」を設置し、環境医学研究部門、血液医学研究部門、保健科学研究部門、健康福祉計画研究部門、病態生理研究部門、情報システム研究部門の6研究部門及び実験医学センター並びにさいたま支所を置き、基礎的・総合的な調査研究を行うほか、同地域における高齢化、少子化の進行に対応した保健・医療・福祉に係る諸施設を支援するための事業です。

また、当研究所の調査・研究事業に必要な研究機器は、「難病及び希少難病に関する研究等」として、公益財団法人JKAからの補助金（競輪公益資金）により整備され、使用されています。

なお、整備された研究機器について、当研究所内において有効的に活用され、それらの研究成果については、毎年度「地域社会健康科学研究所報告集」として冊子化し、各都道府県等に配付しています。

◆ 研修事業（公益目的事業2）

当財団では、自治医科大学と密接な連携のもとに各種研修会（中央研修会と現地研修会）を合せて年間30回程度開催しています。

また、地域住民を対象とした保健・医療・福祉等に関する意識向上のための研修や、地域医療が抱える様々な問題とその解決策を医療従事者等と地域住民とともに考え討議するフォーラムやシンポジウムを開催しています。

<中央研修会>

当研修会は、地域社会において保健・医療・福祉事業に携わる方々が、最新の医学知識と医療技術を習得することにより、地域住民が安心して生活することができることを目的に開催しています。

講師には、自治医科大学の教職員及びそれぞれの分野において活躍されている方々を招き、最新の医療情報の講義や技術の向上を図るための演習等を実施しています。

<現地研修会>

当研修会は、地方公共団体等が推進する健やかな長寿社会づくりに寄与することを目的に、地域住民の方々や地域社会において、保健・医療・福祉事業に携わる方々を対象として、保健・医療・福祉事業に関するテーマで、当該団体と当財団が共催の形を取り全国各地で開催しています。

<健康福祉プランナー養成塾>

地域住民の社会福祉・介護サービスを構想し、運営するコミュニティ・リーダーの育成を目的に、健康福祉行政等の企画立案に携わる地方公共団体等の保健師、医師、事務職員等を対象に、保健・医療・福祉に関する専門知識の理解と、優れた企画立案能力を習得するため、職種横断的な研修会を年2回（夏季コース・アドバンスコース）開催しています。

* テキストの最終ページに載せてください。

【テキスト用】

＜地域医療を考える県民フォーラム＞

深刻化する医師不足等の地域医療に関する現状及び課題について、行政、医療関係機関、住民等が認識を共有し、自らの地域のあり得べき地域医療について主体的かつ建設的に考えるフォーラムを開催することによって、開催県における地域医療の充実確保に寄与するとともに、地域が一体となって自らの地域医療について考える全国的なモデル事業としての役割を果たすことを趣旨・目的としています。

＜地域医療を守り育てる住民活動全国シンポジウム＞

このシンポジウムは、地域医療の課題を解決するには地域住民の理解や協力などの「住民の力」や、住民の主体的活動が重要であることを共通の認識とすること、住民と地方自治体行政との相互理解・協働が不可欠であることの認識を共有し、また、そのような住民の団体（住民グループ・NPO法人等）が全国的な連携をとれるようなネットワークづくりを目的として開催しています。

◆ 交付金交付事業（公益目的事業3）

栃木県から発行される「地域医療等振興自治宝くじ」通称「レインボーくじ」の収益金を財源として次の事業を行っています。

＜人生100年時代づくり・地方創生ソフト事業交付金交付事業＞

都道府県及び市（区）町村が、高齢社会対策大綱のほか、少子化社会対策大綱や第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略などの実現に資するために積極的に取り組む事業に対し交付金を交付しています。

＜整備拡充事業費交付金交付事業＞

へき地等の地域医療の先駆的な役割を担っている自治医科大学の教育及び研究に欠くことのできない施設設備や研究機器などの整備拡充を支援するため、交付金を交付しています。



【問合せ先】

公益財団法人 地域社会振興財団 事務局研修係
〒329-0498 栃木県下野市薬師寺3311-160
自治医科大学地域医療情報研修センター内

T E L 0285-58-7436

F A X 0285-44-7839

E-mail fdc@jichi.ac.jp

U R L <https://www.zcssz.or.jp/>

看板の見本

会場入り口及び会場内に設置願います。

〔地域社会振興財団 第 回 現地研修会〕

「タイトルを入れてください」研修会

主催：〇〇〇〇町
〇〇〇〇

共催：（公財）地域社会振興財団

後援：（学）自治医科大学

〔地域社会振興財団 第 回 現地研修会〕

「タイトルを入れてください」研修会

主催 〇〇〇〇町

〇〇〇〇

共催 （公財）地域社会振興財団

後援 （学）自治医科大学

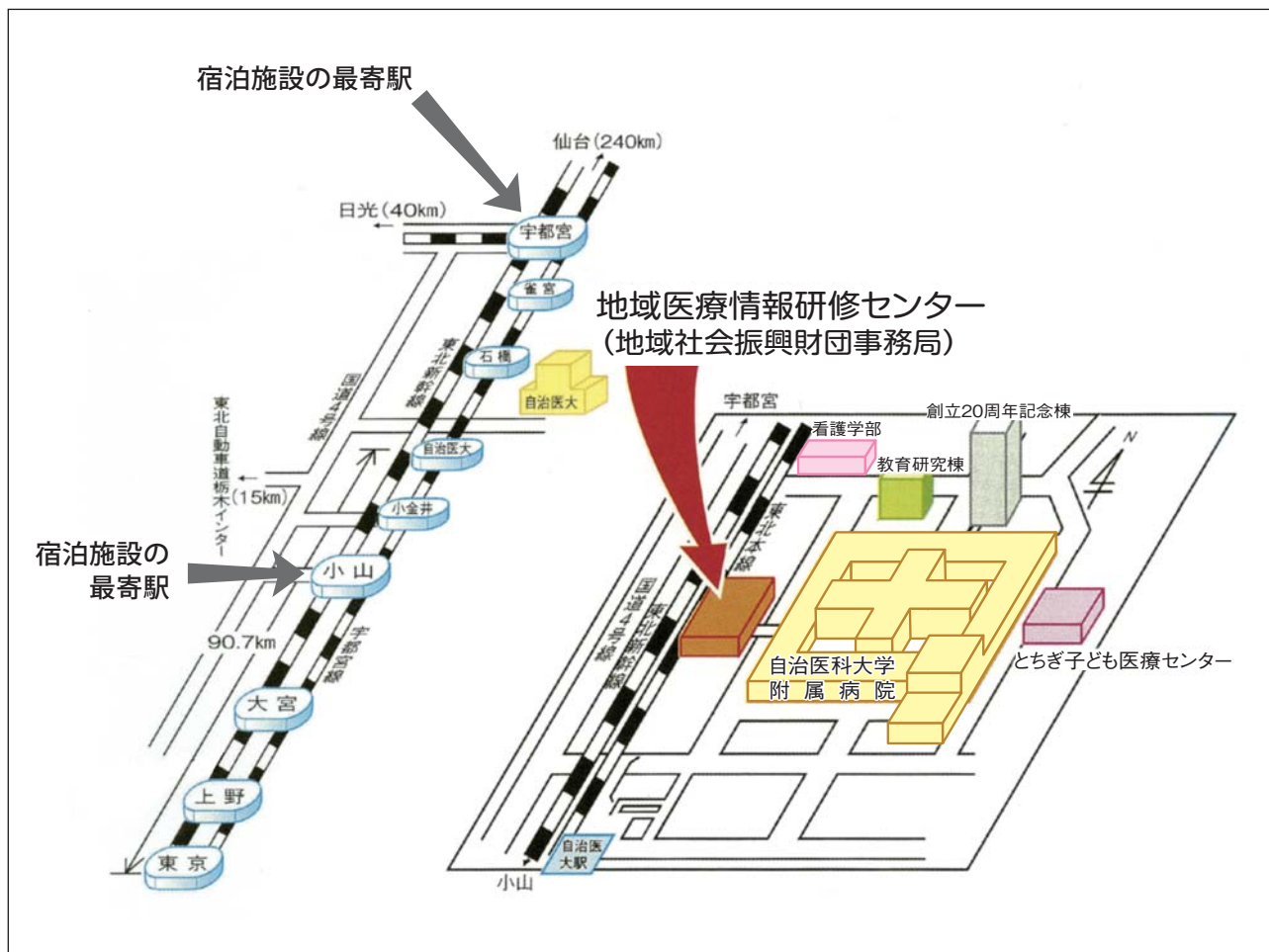
日程表の見本

研修会日程

- 1 研修会名：第 〇回現地研修会「研修会テーマ 〇〇〇〇」
- 2 開催日時： 〇 年 〇 月 〇 日 (〇) : 〇 ~ 〇 :
- 3 場 所：〇〇〇センター〇〇〇ホール

時 間	プ ロ グ ラ ム
12:30 13:00	受 付
	開 会 式 司 会 〇〇町健康福祉課 課長 自治 一郎 【開会挨拶】 〇〇町 町長 〇〇〇〇 公益財団法人地域社会振興財団総務課 課長 〇〇〇〇 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;">必ず財団挨拶の時間を 設けてください</div>
13:10	【講 演】 「 〇〇〇〇 」 自治医科大学地域医療学 教授 〇〇〇〇
14:50	休 憩
15:00	【パネルディスカッション】 「テーマ： 〇〇〇〇 」 コーディネーター 自治医科大学地域医療学 教授 〇〇〇〇 パネリスト 〇〇〇病院 院長 〇〇〇〇 〇〇〇大学 教授 〇〇〇〇 〇〇県〇〇健康福祉センター 所長 〇〇〇〇
16:00	閉 会 式 【閉会挨拶】 〇〇町〇〇協議会 会長 〇〇〇〇
16:10	

(公財) 地域社会振興財団の所在地



連絡先

〒329-0498

栃木県下野市薬師寺3311-160

公益財団法人 地域社会振興財団 事務局研修係

T E L 0285-58-7436

F A X 0285-44-7839

E-mail fdc@jichi.ac.jp

U R L <https://www.zcssz.or.jp/>

